

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 憲法総論	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 成田 節夫	
実務経験 あり なし 行政書士事務所開業、業務の経験を活かして、憲法の基本的な総論、原則を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本国憲法の三大原則である、「国民主権」、「基本人権の尊重」、「平和主義」を中心に憲法の基本的理念を学び、国民生活の身近に憲法があることを感じ、社会生活においてどのように機能しているかを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>基本的な総論、原則を理解すること。「基本的人権の尊重」「個人の尊重」を中心に講義をすすめます。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>聞きなれない用語や概念を理解していくなかで、個人が個人として尊重され「個性」がかけがえのない価値観として尊重されることの理由を説明できるようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回…憲法とは何のためにあるのだろうか？国家とのかかわりと法律との関係</p> <p>第2回…憲法はどのようにして生まれたか？思想の背景と歴史的な背景</p> <p>第3回…三大原理①国民主権②基本的人権の尊重③平和主義</p> <p>第4回…原理(1)個人の尊重～「皆同じ」と「皆違う」個性尊重の原理</p> <p>第5回…原理(2)法の支配～基本的人権を守る法の仕組み</p> <p>第6回…基本的人権と平和主義とのかかわり</p> <p>第7回…基本的人権の意味と特徴「個人の尊重」と「公共の福祉」、「法の下での平等」</p> <p>第8回…基本的人権～「表現の自由」表現の自由の範囲</p> <p>第9回…基本的人権～「信仰の自由」マイノリティの考え方</p> <p>第10回…基本的人権～「人身の自由」刑事手続きにおける権利</p> <p>第11回…生存権～社会保障制度と教育を受ける権利</p> <p>第12回…人権のまとめ</p> <p>第13回…国会、内閣、裁判所、三権分立の仕組み</p> <p>第14回…地方自治と憲法改正</p> <p>第15回…予備回</p>			
[使用テキスト・参考文献] 伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業 伊藤真 著 株式会社 KAOKAWA		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験(100点)で評価する。 但し、課題提出状況により5・10・15の三段階で加点をする場合あり。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 文章表現	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 三原 芙美子																																														
実務経験 あり なし																																																
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修																																													
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・文章の基本的な書き方や書き分けなどについて理解する。 ・自身の考えなどを適切に文章にまとめることで文章表現力・まとめる力を身につける。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・文章の表現方法や書き方、書き分けなどについて理解する。 ・実際に漢字や文章を書きながら文章表現を身につける。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・文章の基本的な書き方や書き分けなどについて理解を深めることができる。 ・適切な文章表現をすることができる。 ・自身の考えなどについて文章でまとめることができる。 																																																
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td style="width: 25%;">漢字テスト①</td><td style="width: 70%;">読みやすい文章とは</td></tr> <tr><td>2</td><td>漢字テスト②</td><td>文章の書き方の基本①</td></tr> <tr><td>3</td><td>漢字テスト③</td><td>文章の書き方の基本②</td></tr> <tr><td>4</td><td>漢字テスト④</td><td>文章の種類</td></tr> <tr><td>5</td><td>漢字テスト⑤</td><td>文章の書き分け ～口語体と文語体～</td></tr> <tr><td>6</td><td>漢字テスト⑥</td><td>文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け①～</td></tr> <tr><td>7</td><td>漢字テスト⑦</td><td>文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け②～</td></tr> <tr><td>8</td><td>漢字テスト⑧</td><td>文章の推敲①</td></tr> <tr><td>9</td><td>漢字テスト⑨</td><td>文章の推敲②</td></tr> <tr><td>10</td><td>漢字テスト⑩</td><td>演習①</td></tr> <tr><td>11</td><td>漢字テスト⑪</td><td>演習②</td></tr> <tr><td>12</td><td>漢字テスト⑫</td><td>演習③</td></tr> <tr><td>13</td><td>漢字テスト⑬</td><td>演習④</td></tr> <tr><td>14</td><td>漢字テスト⑭</td><td>演習⑤</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				1	漢字テスト①	読みやすい文章とは	2	漢字テスト②	文章の書き方の基本①	3	漢字テスト③	文章の書き方の基本②	4	漢字テスト④	文章の種類	5	漢字テスト⑤	文章の書き分け ～口語体と文語体～	6	漢字テスト⑥	文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け①～	7	漢字テスト⑦	文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け②～	8	漢字テスト⑧	文章の推敲①	9	漢字テスト⑨	文章の推敲②	10	漢字テスト⑩	演習①	11	漢字テスト⑪	演習②	12	漢字テスト⑫	演習③	13	漢字テスト⑬	演習④	14	漢字テスト⑭	演習⑤	15	まとめ	
1	漢字テスト①	読みやすい文章とは																																														
2	漢字テスト②	文章の書き方の基本①																																														
3	漢字テスト③	文章の書き方の基本②																																														
4	漢字テスト④	文章の種類																																														
5	漢字テスト⑤	文章の書き分け ～口語体と文語体～																																														
6	漢字テスト⑥	文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け①～																																														
7	漢字テスト⑦	文章の書き分け ～目的別の文章の書き分け②～																																														
8	漢字テスト⑧	文章の推敲①																																														
9	漢字テスト⑨	文章の推敲②																																														
10	漢字テスト⑩	演習①																																														
11	漢字テスト⑪	演習②																																														
12	漢字テスト⑫	演習③																																														
13	漢字テスト⑬	演習④																																														
14	漢字テスト⑭	演習⑤																																														
15	まとめ																																															
[使用テキスト・参考文献] テキストは使用せず、毎回資料を配布する。		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況 (25 点)、提出物 (50 点)、授業態度 (25 点) で評価する。																																														

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) I Tスキル I	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 佐藤 和成	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 教育機関にて事務業務に従事。文書作成、統計処理、データベース管理、プレゼンテーション資料の作成等を行う。 表や写真等を含んだ、一般的なビジネス文書が作成できるよう講義する。 関数を使って計算、集計処理できるよう講義する。			
[授業の目的・ねらい] 1. ワードについては、文字入力の基本操作から標準的なビジネス文書の作成を習得させる。 2. エクセルについては、初歩を習得させる。 [授業全体の内容の概要] ひとり一台パソコンが操作できる環境で、授業を行う。プロジェクターで画面指示を行いながら、学生各自で操作を行い、これを習得させる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 仕事、日常生活のなかのパソコン使用に役立てる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 2. タイピング①、パソコンのしくみと基本的な操作 3. タイピング②、Microsoft Word の基本操作 4. 文字だけのかんたんな文書の作成～ひらがな、カタカナ、アルファベット、記号 5. 文書の編集操作①～ページ様式の設定、コピー・切り取りと貼り付け、挨拶文の挿入 6. 文書の編集操作②～文字の設定、文字列の配置、箇条書きと字下げ 7. 表作成 8. 図形 9. 画像 10. 表や図形の入った文書の作成 11. word のまとめ 12. 表計算ソフト、Microsoft Excel の基本操作 13. 表の作成と計算集計機能について 14. 振り返り、まとめ 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 授業担当者作成のプリント使用		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験得点 (70 点)、出席状況及び提出物 (30 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) I T スキル II	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 佐藤 和成	
実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> なし 教育機関にて事務業務に従事。文書作成、統計処理、データベース管理、プレゼンテーション資料の作成等を行う。 グラフの作成やデータベースの管理ができるよう講義する。 Power Point の機能を理解し、プレゼンテーションできるよう講義する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1. ワードについては、標準的なビジネス文書の作成を習得させる。 2. エクセルについては、関数の基本やデータベース管理、グラフの作成を習得させる。 3. パワーポイントについては、機能を活用した簡単なプレゼンテーションを習得させる。 [授業全体の内容の概要] ひとり一台でパソコンが操作できる環境で、授業を行う。プロジェクターで画面指示を行いながら、学生各自で操作を行い、これを習得させる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 仕事、日常生活のなかのパソコン使用に役立てる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. IT スキル I のおさらい 2. プレゼンテーションと Microsoft PowerPoint の操作① 3. Microsoft PowerPoint の操作② 4. Microsoft PowerPoint の操作③ 5. Microsoft PowerPoint の操作④ 6. Microsoft PowerPoint の操作⑤ 7. プレゼンテーションと Microsoft PowerPoint の発表会① 8. プレゼンテーションと Microsoft PowerPoint の発表会② 9. エクセル 計算集計機能について 10. エクセル グラフの作成① 11. エクセル グラフの作成② 12. エクセル データベースの管理① 13. エクセル データベースの管理② 14. 振り返り、まとめ 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 授業担当者作成のプリント使用		[単位認定の方法及び基準] ① 4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ② 定期試験得点 (40 点)、プレゼン発表会 (30 点)、出席状況及び提出物 (30 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション英語 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 中山・エミヨウ・ジェニファー	
実務経験 あり なし 英会話教室での経験を活かして、簡単な英会話ができるよう教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 英語能力を高めて、簡単な会話で自分の意見を発表するための練習をする。 [授業全体の内容の概要] 基本的な英語によるコミュニケーションのスキルの提示。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 一定レベルの英語を理解して、英会話で自分の意見を発表できるようになって、簡単な話をできるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 第 1 回 コミュニケーションのための英語 あいさつ・教室に使える基本英語 第 2 回 自己紹介、個人情報の交換について会話 第 3 回 時間と日常生活の動き 第 4 回 ふるさどについて会話 第 5 回 食生活 第 6 回 生活の動きの 12 ヶ月 第 7 回 音楽の好き嫌いについて 第 8 回 家族について 第 9 回 趣味や楽しみ 第 10 回 デートや映画などについて意見を発表すること 第 11 回 季節・天気・健康について 第 12 回 便利なものについて会話 第 13 回 何々体験がありますか・過去の事について会話 第 14 回 ふりかえり 第 15 回 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・Getting Info English 始めよう英会話		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②ペーパー・テスト (60%)、口頭発表 (25%) 宿題の提出及びクラスの課題の提出 (15%) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション英語Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 中山・エミヨウ・ジェニファー	
実務経験 あり なし 英会話教室での経験を活かして、簡単な英会話ができるよう教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 英語能力を高めて、簡単な会話で自分の意見を発表するための練習をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 基本的な英語によるコミュニケーションのスキルの提示。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 一定レベルの英語を理解して、英会話で自分の意見を発表できるようになって、簡単な話をできるようにする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>第1回 Classroom English 個人情報</p> <p>第2回 家族と住まい</p> <p>第3回 趣味と好み</p> <p>第4回 ハロウィーン・パーティー</p> <p>第5回 時間や曜日や年月日</p> <p>第6回 お買い物</p> <p>第7回 日常生活の習慣</p> <p>第8回 お休み又はひまな時にすること</p> <p>第9回 町にある場所・指図すること</p> <p>第10回 電話での会話</p> <p>第11回 クリスマス・パーティー</p> <p>第12回 デートについて会話、外食について会話</p> <p>第13回 健康について会話</p> <p>第14回 口頭発表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
[使用テキスト・参考文献] ・Out Front(アウトフロント)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②ペーパー・テスト (60%)、口頭発表 (25%) 宿題の提出及びクラスの課題の提出 (15%) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) スポーツ実技	授業の種類 (講義・演習・ 実技)	授業担当者 玉木 義浩	
実務経験 あり なし 学校、スポーツ施設、幼児や障害児者への運動指導経験を活かし、さまざまな運動について幅広く教授する。			
授業の回数 23 回	時間数 (単位数) 45 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・スポーツ・ゲーム或いはストレッチ等を通して、体力及び健康維持、増進の大切さを学ぶ。 ・様々な体験を通して、よりスポーツの視野を広げると共に、その楽しさを知る。			
[授業全体の内容の概要] ・下記授業内容参照			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・集団或いはグループの中で運動を通して、個々が率先して協力・協調性を養うと同時に、お互いの役割を十分に果たしていけるよう、日ごろから体力や健康に関心を持つ。			
[授業の流れ (以下同様) 及び、その日の主なテーマ] 1 回目 オリエンテーション ・授業内容と評価について ・ランニングアプリ (TATA) のダウンロードと使用方法の確認 (実際にウォーキング実施アプリの機能とデータ提出の方法を確認する) 2 回目～23 回目 ・ウォーキング (ランニング) の実施。カップの確認。 アプリを通したウォーキング実施マップとデータの提出 ・県立スポーツ公園にて草野球、レクリエーション (スポンジボール、こんにやくボール、プスチックバッド使用) ・県立スポーツ公園にて転がしボール野球、レクリエーション ・県立スポーツ公園及び学校周辺にて、ランニング (ジョギング、ウォーキング)、散策 (アプリ併用) ・運動会の取り組みとその実践 ・スポーツ大会 (球技中心) の取り組みとその実践 ・スケートの実践 (スケーティング技術の基礎技術) ・救急法 (胸骨圧迫、AED) 普通救命講習 (消防)			
[注意事項] ※必ず、運動着・運動靴・タオル・飲料水 (水分補給用) を個々に準備する。 ※必要時以外スマートフォン、携帯電話等、使用しない。 ※爪の管理及びネックレス・ピアス或いは指輪等は外し、怪我のないように配慮する。 ※体調不良及び怪我をした場合は、我慢せずに申し出ること。 ※雨天決行 (カップを用意する)			
[使用テキスト・参考文献] 特になし	[単位認定の方法及び基準] ①出席点 30 点 (1 欠席 10 点減点) 公欠除く ②授業参加態度及び授業内での実践データ (70 点) から評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) スポーツ理論	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 古俣 健	
実務経験 あり なし 社会福祉施設での指導員の経験を活かして、スポーツの楽しさ、健康管理について教授する。			
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 15 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>スポーツの歴史及び、スポーツと体育の相違点を認識し、心身の仕組みや健康について、身近な問題や解決策を解剖生理学的に学び、それを将来の職場や実生活に生かしていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>下記授業内容参照</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>自ら課題に向けて、真剣に向き合う気持ちを養うと同時に、スポーツの楽しさを知り、自己の健康管理も含め、その動機づけを行う。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>(1 回目)</p> <p>※ 授業のねらい・スポーツと体育・健康と福祉</p> <p>(2 回目)</p> <p>※ コーチの立場と姿勢のあり方 (健康児と障がい児)</p> <p>(3 回目)</p> <p>※ ギリシャ文明と古代オリンピック精神</p> <p>(4 回目)</p> <p>※ フェアプレーとスポーツマンシップ・ドーピングと副作用</p> <p>(5 回目)</p> <p>※ 運動と血液成分・亜鉛の大切さ・舌の健康他</p> <p>(6 回目)</p> <p>※ 熱中症からくる意識障害、脳震盪からくる意識障害・スポーツにおける負傷</p> <p>(7 回目)</p> <p>※ スポーツにおける疲労と過労・プレッシャーとストレス対策他</p> <p>(8 回目)</p> <p>※ 簡単総まとめ、そのあと定期試験</p>			
[使用テキスト・参考文献] 「大学生の健康・スポーツ科学」 (道和書院)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②授業意欲 (40 点)、定期試験 (60 点) で評価する。 ※定期試験は、ノート持ち込み可とする。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 教育原理	授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)	授業担当者 高橋 萌香	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育とは何かについて、自分の経験もふり返りながら考えるとともに、今私たちが教育について何を考えなくてはならないのかを検討する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>教育についてのさまざまな考え方について教科書や資料を読み、そこに述べられたことが現代に生きる自分の目にはどのように映るのか考え、疑問や自分なりの見方を導き出す。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>今日私たちの社会が教育について持っているさまざまな考え方を知り、理解し、よりよい教育とは何かについて、自分なりの考えを述べるができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 教育原理を学ぶ意義 2 教育の今日的課題 1 3 教育の今日的課題 2 4 人間の発達と教育 5 教育の思想・理念 6 教育の歴史 西洋 1 7 教育の歴史 西洋 2 8 教育の歴史 日本 1 9 教育の歴史 日本 2 10 新しい時代の世界的学力 11 教育の方法と技術 12 教育課程とカリキュラム・マネジメント 13 地域・社会と学校 14 教師の職務と専門性 15 これまでのまとめ テスト <p>*授業の進捗は取り扱う内容とその消化により変わることがある。</p>			
[使用テキスト・参考文献] 石田美清編著『子どもと教師のための教育原理』、 保育出版社、2012		[単位認定の方法及び基準] ・4/5 以上の授業参加が定期試験の受験要件。 ・授業参加態度 20%、課題の提出 30%、テストの成績 50%として評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育原理 I	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 平澤 久美子	
実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> なし 幼児教育分野での経験を通して、保育原理を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>「生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期」に保育士として子どもに関わることを常に胸に刻み、保育とは何かを学んでいく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育の意義、基本的原理、歴史と現状、課題、様々な保育思想などの基礎知識を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕</p> <p>保育とは何か、子ども観、保育環境、保育内容と方法、保育の計画など保育の全体像について理解をする。現状において保育者に求められている事は何かなどについて、自分なりに考察できる。また、歴史や制度を理解し実践を支える力をつける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに「保育」という言葉からイメージするもの 2 保育とは何か 3 保育の基盤としての子ども観 4 保育における子ども理解 5 子どもが育つ環境の理解 6 保育内容・方法の原理 7 〃 8 保育の計画と実践の原理 9 保育者に求められるもの 10 保育の歴史に何を学ぶか (西欧) 11 保育の歴史に何を学ぶか (西欧) 12 保育の歴史に何を学ぶか (日本) 13 家族援助と子育て支援 14 保育の現状と課題 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい保育講座①保育原理」(ミネルヴァ書房) ・保育所保育指針解説書 (フレーベル社) ・育ての心 (上) (フレーベル館) 		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②定期試験 (80点)、出席状況 (10点)、授業態度及び提出物評価 (10点) で評価する。</p>	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉 I	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 玉木 義浩
実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> あり なし 障害者施設、老人福祉施設での経験を通して、社会福祉を教授する。		
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期
(必修) 選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>近年、日本の社会福祉は大きく変わりつつあります。とりわけ、社会福祉基礎構造改革によって、利用者主体の制度が確立されたことは、画期的なことでした。さらに社会モデルへのパラダイムシフトに加えて、多様性であったりピープルファーストの理念、インクルーシブ社会に向けた施策、法制度・社会慣行の樹立など最近の動向と、社会福祉の理念と歴史を照らし合わせる中で、専門職の倫理、制度の仕組みなどについて理解を深めます。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉の総論的な内容 (基礎概念・歴史・最近の動向、現状と課題) を講義します。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>社会福祉とは何だろう?と問われたときに、自分なりに答えられるように社会福祉に関する知識を身につける。さらにグローバルな視点(マクロからマイクロまで)で社会福祉を捉え、より身近なものとして社会福祉を感じることができるようになる。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>第1回 社会福祉とは何だろう?——社会福祉の基礎概念 (社会福祉の理念と概念)</p> <p>第2回 社会福祉の歴史的変遷①——慈善事業から福祉国家へ</p> <p>第3回 社会福祉の歴史的変遷②——福祉国家から地域福祉へ</p> <p>第4回 貧困問題と児童家庭福祉 映像「密着、虐待と闘う児童相談所」新潟編</p> <p>第5回 我が国の社会福祉の歩み① 戦前</p> <p>第6回 我が国の社会福祉の歩み② 戦後</p> <p>第7回 諸外国の社会福祉の歩み① イギリス</p> <p>第8回 諸外国の社会福祉の歩み② ドイツ&スウェーデン(デンマーク含)&アメリカ</p> <p>第9回 諸外国の社会福祉の歩み③ ドイツ&スウェーデン(デンマーク含)&アメリカ</p> <p>第10回 社会福祉における相談援助——相談援助の意義と原則～求められる知識と技術</p> <p>第11回 日本の社会福祉の貢献者</p> <p>第12回 日本の社会福祉の貢献者</p> <p>第13回 社会福祉の動向と課題①——少子高齢社会への対応 在宅福祉・地域福祉の推進 DVD</p> <p>第14回 社会福祉の動向と課題②——他分野との連携とネットワーク</p> <p>第15回 定期試験</p>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>①『社会福祉概論—現代社会と福祉—』第4版 小田兼三 杉本敏夫 編著 勁草書房 2016年</p> <p>②『社会福祉小六法2020』中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②定期試験 (50点)、平常点 (30点)、出席 (20点) で評価。</p>

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭支援論		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 廣井 茂道	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・前期		必修・選択 必修	
実務経験 あり なし 保育園での園長、理事長の経験を活かして、家族への援助、社会的状況、支援体制について保育所の役割を教授する。					
[授業の目的・ねらい] 保育所の役割として入所児の世話・発達援助だけではなく、その保護者ならびに家族への援助が必要になっている現状を伝える。また入所児の家族にとどまらず地域の子育て家族への援助の視点も築いていく。 [授業全体の内容の概要] 保育所が社会の中で置かれている位置を知ってもらい、その中で子どもたちにどんなことが起きているのかを伝え、その背景と保育者がどんな役割を果たしていったらいいのか考えさせたい。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 家庭の意義とその機能について理解する。 2 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3 子育て家庭の支援体制について理解する。 4 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (1) 家庭支援の意義と役割 1 ①家庭の意義と機能 2 ②家庭支援の必要性 3 ③保育士等が行う家庭支援の原理 (2) 家庭生活を取り巻く社会状況 4 ①現代の家庭における人間関係 5 ②地域社会の変容と家庭生活 6 ③男女共同参加社会とワークライフバランス (3) 子育て家庭の支援体制 7 ①子育て家庭の福祉をはかるための社会資源 8 ②子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (4) 多様な支援の展開と関係機関の連携 9 ①子育て支援サービスの概要 10 ②保育所入所児童の家庭への支援 11 ③地域の子育て家庭への支援 12 ④要保護児童及びその家庭に対する支援 13 ⑤子育て支援における関係機関との連携 14 ⑥子育て支援サービスの課題 15 定期試験					
[使用テキスト・参考文献] 「保育者が学ぶ家庭支援論」 (建帛社)			[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (80点)、講義内の提出物又はレポート (20点) で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護 I	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 三原 芙美子	
実務経験 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の意義・役割について理解するとともに、子どもの権利擁護について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解し、専門職者として必要な資質を培う基礎とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の意義・制度・実施体系などについて学ぶ。 ・子どもの権利擁護・自立支援などについて学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の意義などについて理解するとともに、社会的養護の現状と課題について理解を深めることができる。 ・子どもの権利擁護について理解するとともに専門職者としての役割について考え、自身の子ども観・施設養護観を構築することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護とは 社会的養護の理念 2 社会的養護の歴史的変遷 3 子どもの権利擁護と社会的養護① 4 子どもの権利擁護と社会的養護② 5 社会的養護の制度・法体系 6 社会的養護のしくみと実施体系 7 社会的養護と家庭的養護 8 社会的養護の実施者・専門職者 9 施設養護の基本原理 10 施設養護の実際① 11 施設養護の実際② 12 施設養護の現状と課題① 13 施設養護の現状と課題② 14 グループワーク 15 まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新基本保育シリーズ 6 社会的養護 I (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②定期試験 (60 点)、出席状況 (10 点)、提出物 (20 点)、授業態度 (10 点) で評価する。</p>	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育者論	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 金子 亜美	
実務経験 あり なし			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 保育という日々の営みにおいて、子どもにとって保育者という存在はどのような存在か、そして保育者はどうあるべきか、理解する。			
[授業全体の内容の概要] ○法的なものが求める保育者像を明らかにしながら、子どもと生活を共にする保育者としての役割、倫理、職務の意義、職務内容を学ぶ。 ○保育者の資質と能力とは、どうあるべきか考察する。 ○保育者に求められる人間性を実践例から学ぶ。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 保育者の役割 2 保育者の倫理 3 保育者の資格と義務 4 保育者の専門性 5 " 6 " 7 " 8 保育者に求められる人間性を実践例から学ぶ 9 " 10 " 11 " 12 " 13 " 14 " 15 "			
[使用テキスト・参考文献] 基本保育シリーズ 保育者論 保育所保育指針		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (50 点)、出席状況及び授業態度、提出物 (50 点) で評価する。 ただし、次のような減点を設ける。 ・欠席 1 回につき 3 点 ・遅刻 1 回につき 1 点	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の心理学	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 金子 亜美	
実務経験 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期から児童期の子どもの発達に関わる心理学の基礎的な知識を習得する。 ・保育や教育実践を心理学的観点で考察できる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳児期から児童期までの言語、認知、情動、人格という様々な領域の発達について学ぶ。特に乳児期では、保育との関連について考察する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達の理解とその意義 2 子どもの発達と環境 3 発達観、子ども観と保育観 4 保育実践の評価 5 社会情動的発達① 6 社会情動的発達② 7 社会情動的発達③ 8 身体的機能と運動機能の発達 9 認知の発達① 10 認知の発達② 11 認知の発達③ 12 乳幼児期の学びに関わる理論 13 乳幼児期の学びの過程と特性① 14 乳幼児期の学びの過程と特性② 15 乳幼児期の学びを支える保育 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育の心理学」(ナカニシヤ出版) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験(70点)、試験レポート(20点)、出席状況及び授業態度(10点)で評価する。 	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの理解と援助		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 金子 亜美	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修		
実務経験 あり なし					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の心理学で学んだ、発達に関する基礎知識をさらに深める。 ・事例から、援助の方法を考察する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育の現場で観察される乳幼児のエピソードを通して、子どもの発達や学習の過程について学ぶ。その学びを活かし、実際の保育の様々な状況において子どもをどう援助するかについて考察する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における子どもの理解の意義 2 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 3 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 4 子どもの生活や遊び 5 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6 子ども相互の関わりと関係づくり 7 集団における経験と育ち 8 葛藤やつまずき 9 保育の環境の理解と構成 10 環境の変化や移行 11 子どもを理解する方法 12 職員間の対話・保護者との情報の共有 13 発達の課題に応じた援助と関わり 14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援 					
[使用テキスト・参考文献] なし (資料を配布します)			[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②レポート (80 点)、授業態度及び出席状況 (20 点) で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの保健	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 須貝 直美	
実務経験 あり なし 病院での看護業務、研究を活かして、乳幼児の成長、発達過程の知識を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 30時間 (2単位)	配当学年 1年・前期	必須・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 乳幼児の成長、発達過程を正しく把握することで、身体的、社会的、心理的な健康を保持、増進するために、保育現場で要求される小児保健上の知識について学習する。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児の健康保持増進を促し、社会に適応するための発達を育成するために必要な援助を知る。 [授業終了時の達成課題] (達成目標) こどもに関わる専門職として必要な保健の知識を習得し、日常の保育現場における健康の保持・増進・および 健康問題に対する適切な対応が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ 1 保健活動の意義と目的 2 こどもの出生と母子保健の意義 3 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4 こどもの身体発育と運動機能の発達 5 生理機能の発達と生活習慣 6 地域における保健活動と子どもの虐待防止 7 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 8 子どもの免疫の発達と感染症の特徴 9 感染症の予防および適切な対応 10 救急疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応 12 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 保護者との情報と家族の支援 こどもの健康診断など 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 「こどもの保健テキスト」 診断と治療社		[単位認定の方法及び基準] ① 4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。②定期試験 (60点) 出席状況 (30点) 提出物・授業態度 (10点) 評価	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの食と栄養 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 逢坂 紀子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 保育園での管理栄養士、給食業務の経験を活かして、小児の食生活指導を行うための知識及び技能を教授する。			
[授業の目的・ねらい] 小児が健やかに身体発育、精神発達していくための栄養に関する知識を理解し、保育者自身が主体的に小児の食生活指導を行うための基礎を習得することを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 生涯にわたる健康な生活の基礎となる小児期の栄養と食生活について理解し、小児各期の発達段階に応じた献立作成、食事展開の方法を身につける。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 小児各期の発達段階に応じた献立作成、食事展開の方法を身につけ、保育者自身が主体的に小児の食生活指導を行うための知識及び技能を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 子どもの健康と食生活の意義 2 栄養に関する基本的知識 (栄養素) 3 栄養に関する基本的知識 (代謝・食事摂取基準・献立作成の基本) 4 子どもの発育・発達と食生活 (乳児期の栄養と食生活①) 5 子どもの発育・発達と食生活 (乳児期の栄養と食生活②) 6 子どもの発育・発達と食生活 (幼児期の栄養と食生活①) 7 子どもの発育・発達と食生活 (幼児期の栄養と食生活②) 8 子どもの発育・発達と食生活 (学童期以降の栄養と食生活) 9 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 10 食育の基本と内容 (食育とは、食育指導計画) 11 食育の基本と内容 (食育指導媒体の作成) 12 食育の基本と内容 (食育指導媒体の発表) 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (食物アレルギー他①) 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (食物アレルギー他②) 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] ・最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養 (全社協) ・配布プリント		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (60 点)、グループワーク及び提出物 (40 点) で評価する。 但し、次のような減点を設ける。 ・欠席 1 回につき 3 点 ・遅刻 1 回につき 1 点 ・授業態度 (注意後も改善が見られない場合) 1~2 点	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの食と栄養Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 逢坂 紀子	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期		必修・選択 必修	
実務経験 あり なし 保育園での管理栄養士、給食業務の経験を活かして、小児各期の発達段階に応じた食物や献立作成、調理ができるよう教授する。					
[授業の目的・ねらい] 小児期では、発達段階に応じた栄養法、食事形態であることが重要である。小児各期の食生活の特徴や課題を理解し、献立作成や調理実習、食育など現場で実践できる知識と技能を身につけることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 小児各期の発達段階に応じた献立作成、食事展開の方法を身につけ、調理実習を通して調理技術を身につける。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 小児各期の発達段階に適した食物や調理方法を選択し、献立作成が行えるとともに、調理実習を通して基礎的な調理技術を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 [離乳食の実習 3 [離乳食の実習 4 [離乳食の実習 5 [離乳食の実習 6 [幼児食の実習 7 [幼児食の実習 8 [幼児食の実習 9 [幼児食の実習 10 [献立の立案 11 [献立の立案 12 [行事食の実習 13 [行事食の実習 14 [食物アレルギー対応食 15 [食物アレルギー対応食					
[使用テキスト・参考文献] ・配布プリント ・ごちそうさま!またつくってね!から生まれたレシピ集			[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②調理実習においてグループワーク内での参加意欲、チームワーク、指示内容の理解等の取り組み姿勢(70点)、提出物(30点)で評価する。但し、次のような減点を設ける。 ・欠席1回につき3点 ・遅刻1回につき1点 ・調理実習に不適切な身だしなみ 1~2点		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭支援の心理学 I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 金子 亜美	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修		
実務経験 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>					
<p>[授業の目的・ねらい] ・乳幼児期から老年期までの生涯発達に心理学の基礎的な知識を習得し、家庭における子どもの発達と家族の役割について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「生涯発達に関する心理学の基礎知識」、「家族・家庭の意義・機能および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題」、「子どもの精神保健とその課題」を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等を理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 2 思春期から青年期の発達の特徴 3 成人期から高齢期の発達の特徴 4 家族システムと家族発達 5 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達 6 子育て環境の社会状況的变化 7 ライフコースとワーク・ライフ・バランス 8 多様な子育て家庭への支援 9 事例検討 10 特別な配慮を必要とする家庭への支援 11 事例検討 12 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 13 子どもの心と健康 14 障害のある子どもの理解と対応 15 災害と子ども 					
[使用テキスト・参考文献] 「子ども家庭支援の心理学」建帛社			[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②課題レポート (70 点)、授業態度 (20 点)、出席状況 (10 点) で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の計画と評価		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 金子 亜美	
実務経験 あり なし					
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間		配当学年・時期 1年・後期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『全体的な計画』に関する基本的な考え方、指導計画を立てるときの要件について理解す ・保育の記録と保育実践の評価と反省について学び、「評価」をすることで実践を省察し、 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『全体的な計画』の構成・各指導計画の作成について具体的に理解する。 ・子どもが主体的に生活するために必要な知識や技術は何か学び、指導計画の立案・実践・ <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所において『全体的な計画』の構成を理解し、各指導計画の作成について具体的に理解す ・計画・実践・記録・評価・改善のサイクルを学び、評価の重要性を理解する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育とは何か 2 教育・保育に関する法令・要領・指針 3 子どもの育ちと保育 4 教育課程・全体的な計画 5 カリキュラムの基礎理論 6 全体的な計画の変遷 7 全体的な計画から指導計画へ 8 保育所の基本 9 全体的な計画と各指導計画 10 月の指導計画と週の指導計画 11 日の指導計画とデイリープログラム 12 指導計画の作成方法① 13 指導計画の作成方法② 14 保育の実践と評価 15 まとめ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針解説 ・教育課程・保育の計画と評価 ・配布プリント 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②出席状況(10点)、授業態度・提出物(10点)、小テスト・定期試験(80点)で評価する。</p>		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの発達と健康		授業の種類 (講義・ <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> ・ 実習)		授業担当者 伊藤 巨志	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修		
実務経験 あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>					
<p>[授業の目的・ねらい] 乳・幼児期の発育や発達の個人差を理解した上で、支え・促す役割としての保育者の重要性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育者として理解しておくべき発達の見方・とらえ方について、からだの発育・発達、運動発達の方向性の概論を学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 保育内容「健康」領域の理解</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>第 1 回 : 保育内容の健康とは？</p> <p>第 2 回 : 保育の専門性</p> <p>第 3 回 : 乳幼児の発達の見方、捉え方</p> <p>第 4 回 : 乳幼児期の心の安定を支える</p> <p>第 5 回 : 遊びと活動意欲</p> <p>第 6 回 : 安全と保健指導</p> <p>第 7 回 : 領域「健康」と指導計画</p> <p>第 8 回 : 「健康」と環境構成</p> <p>第 9 回 : 保育者の役割</p> <p>第 10 回 : 保育の実際</p> <p>第 11 回 : 安定感を持つには</p> <p>第 12 回 : 生活の場を整える</p> <p>第 13 回 : 食の関心を高める</p> <p>第 14 回 : 健康や病気への関心、安全指導</p> <p>第 15 回 : 試験</p>					
[使用テキスト・参考文献] 保育講座 保育内容健康 ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領			[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②試験 (100 点) で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの発達と人間関係	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 絹子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、乳幼児期のこどもの人間関係の基本的な考え方や援助方法を教授する。			
[授業の目的・ねらい] ○乳幼児期は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であることを知り、人とのかかわりの中で培われていく多様な「人間関係」を学ぶ。 ○保育者が子どもの「人間関係」を育てる重要な役割を担っていることを理解し、子ども同士が相互に影響しあい、他者の存在に気づきながら育ちあう保育のあり方やかかわり方を知る。 [授業全体の内容の概要] 子どもの心理的発達もふまえて、子どもの「人間関係」がどのように発達していくのか、考察する。保育所では日々保育の中で、子どもの「人間関係」に関する様々な問題が起きている。また、感動する場面も多くある。そのような場面での基本的な考え方や援助方法を、具体例を通して学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○子どもを取り巻く環境の「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さ、「生きる力」の衰退を問題視し、これらに対して、保育者として子どもたちにどのように対応すればよいのか、「人間関係」を築く過程において何が大切なのか、理解する。 ○子どもの「人間関係」の構築には、保育者との信頼関係が不可欠であることを理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 保育園におけるソーシャルスキル・・・「千と千尋の神隠し」から学ぶ 2 生きる力と人間関係 3 わたしの自立と人間関係 4 家庭ではぐくまれる人間関係 5 遊びの中で育つ人間関係 6 保育者の役割と課題・・・保育者と子どもが信頼関係を構築するには 7 道徳性の育みと人間関係 8～15 保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいと内容の分析と考察 ※規範、協力、協同、自立、受容、相互作用の観点から、 保育所保育指針「人間関係」のねらいと内容の理解を深める。 特に保育所保育指針「人間関係」において育てていきたい「協同性」 について理解をする。			
[使用テキスト・参考文献] ・ 適宜プリントを配布する ・ 保育所保育指針		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、 定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (60 点) と課題 (40 点) で評価。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの発達と環境 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 絹子	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの発達と環境を教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容をふまえ、実践や事例を通して子どもにとっての身近な環境の特性を明らかにする。 ○学生自身が身近な環境に好奇心や探究心をもち、子どもの生活と結びついた保育の展開を身につける。 [授業全体の内容の概要] 日常生活のさまざまな場面で、子どもがかかわる人的環境、物的環境、自然環境について演習を交えながら学習する。そこから子どもが身近な環境に興味・関心を持ってかかわる力を育てるにはどうしたらよいか、学生自身で解答を導き出す。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○学生自身が「環境とかかわる力」「豊かな感性」を養い、保育者に必要なしなやかな心を育てる。 ○環境とのかかわりを通して、子どもの内面に何が育つのか、また育つことが期待されるのか考察できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～4 保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容の分析と考察 ※自然環境、物的環境、保育環境、行事等、保育所保育指針「環境」のねらいと内容を通して、保育者の環境設定や指導法、活動のあり方を理解する。 5 科学あそびを通して子どもの発達を促す活動を考える。 6 自然環境と子ども発達を促す活動を考える。 7 季節感を取り入れた保育環境と子ども発達を促す活動を考える。 8～15 自然王国集中講義 ※自然環境、物的環境、人的環境を総合的に、実践を通して学ぶ。			
[使用テキスト・参考文献] ・適宜プリントを配布する ・保育所保育指針		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②課題提出及びその内容 (70 点)、授業態度 (30 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 乳児保育 I	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 高橋 裕子	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、乳児保育を教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・乳児保育の意義・乳幼児の成長発達と保育者の役割を理解し、保育の現場に必要な知識・技術・保育マインドを身につける。			
[授業全体の内容の概要] ・テキストや DVD で乳幼児の成長発達と食事・睡眠・排泄・着脱等基本的な生活習慣について学ぶと共に乳幼児期のあそびや健康管理・生活環境について学習する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・乳幼児期の発達の姿を述べることができ、それぞれの月齢・年齢における乳児保育の留意点を挙げるができる。 ・食事・排泄・睡眠等乳児保育に必要な基本的援助法を身につけ、実習先で実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 乳児保育とは (1) かわいがり保育 (2) 育てたい子どもの姿と成長発達の木 2. 0 歳児の姿と大切にしているかかわり 3. 2 か月～3 か月児の発達のみやすとかかわり 4. 4 か月～6 か月児の発達のみやすとかかわり (DVD) 乳幼児の発達と保育 (0 歳児) 5. 7 か月～10 か月児の発達のみやすとかかわり 6. 11 か月～1 歳未満児の発達のみやすとかかわり 7. 0 歳児クラスの保育 (DVD) 0 歳児の保育『一人ひとりに寄り添う』 8. 1 歳児の姿と大切にしているかかわり (DVD) 乳幼児の発達と保育 (1 歳児) 9. 1 歳 1 か月～1 歳 3 か月児の発達のみやすとかかわり 10. 1 歳 4 か月～1 歳 11 か月児の発達のみやすとかかわり 11. 1 歳児クラスの保育 (DVD) 1 歳児の保育『自我が芽生える』 12. 2 歳児の姿と大切にしているかかわり 13. 2 歳児 (イヤイヤの頃) の発達のみやすとかかわり (DVD) 乳幼児の発達と保育 (2 歳児) 14. 2 歳児クラスの保育 (DVD) 2 歳児の保育『遊びを育む』 15. まとめ			

<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『保育ハンドブック 1 かわいがり保育』 0.1.2 歳児クラスの保育（大修館書店）</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none">・ 定期試験（70点）・ 提出物（15点）・ 出席状況（15点）
--	---

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 乳児保育Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 高橋 裕子	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、乳児保育を教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1. 乳児クラスの運営に必要な知識・技術・保育マインドを身につけ、保育現場での実践力を高める。 2. 1~3 歳児における 5 領域を意識した活動を立案し、現場で行えるようにする。			
[授業全体の内容の概要] 1. 乳児クラスの各種計画について学び、日誌や便り・連絡帳の書き方、環境設定・保護者支援について演習を行う。 2. 乳児保育における生活・遊びの実際と援助について学び、保育の様々な場面における具体的な援助法をロールプレイすると共に、5 領域を意識した活動について、模擬保育を行う。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 乳児保育における各種計画および日誌や便り・連絡帳を書くことができる。 2. 乳児の発達に即した保育活動について 5 領域を意識して計画・実践できる。 3. 保護者支援について、様々な場面を想定して対応できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 0,1,2 歳児の発達を振り返ろう！ +3 歳児の発達 2. 全体的な計画・0,1,2 歳児クラスの 1 年 年間区分ごとの目標 3. 月間計画・週案・デイリープログラム・食育計画 4. 連絡帳 (0 歳児用・1.2 歳児用) を書いてみよう！ 5. 乳児クラスのお便りを作ろう！～気分はクラス担任～ 6. 各種記録 (保育記録・経過記録)、何をどのように書けばいい？ 7. 保育所保育指針~1 歳以上 3 歳未満児の保育~各領域のポイントをつかもう！ 8. 乳児クラスの絵本・紙芝居の選択と読み聞かせ 9. 2 歳児の手あそび・折り紙・「ペーパーサートで伝えよう！」 10. 0,1,2 歳児クラスの子どもの遊び 11. 0,1 歳の造形遊び (日常・行事・作品展) 12. 2 歳児の造形あそび (日常・行事・作品展) 13. 0,1,2 歳児の音楽あそび・運動あそび 14. 保護者対応・支援のポイント 15. 2 歳児の指導案を作成しよう！			
[使用テキスト・参考文献] ・「かわいがり保育」0.1.2 歳児クラスの保育 (大修館書店)		[単位認定の方法及び基準] ・提出物 お便り (30 点) 手あそび (5 点) 指導案 (30 点) 読み聞かせ (5 点) 0~3 歳児の発達とあそび (30 点)	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの健康と安全	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 須貝 直美	
実務経験 あり なし 病院での看護業務、研究を活かして、こどもの心と体の健康に対する知識と技術を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 30時間 (2単位)	配当学年 1年・後期	必須・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 保育士としてのこどもの心と体の健康に対する知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] 様々な状況において、こどもの全体像を把握する。 [授業終了時の達成課題] (達成目標) こどもに関わる専門職として必要な保健の知識を習得し、日常の保育現場における健康の保持・増進・および 健康問題に対する適切な対応が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ 1 子どもの健康と安全 (演習) についての意義 利用方法 ルールについて 2～4 乳幼児の発育 (身体計測と評価) 5～8 乳幼児の養護 (身体の清潔 沐浴) 9～10 乳幼児におこりやすい症状とケア 11 よくおこる事故と予防 12～13 応急処置 14 感染症の対応 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 「こどもの健康と安全演習ノート」 診断と治療社 他 プリント適宜		[単位認定の方法及び基準] ① 4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ② ②定期試験 (60点) 出席状況 (30点) 提出物・授業態度 (10点) 評価	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育 I	授業の種類 (講義・ <u>演習</u> ・ 実習)	授業担当者 三原 芙美子	
実務経験 あり <u>なし</u>			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害種別や程度、障害のある子どもについて理解を深める。 ・ 一人ひとりに応じた保育ニーズを理解するとともに、子どもの自立と社会参加を促進するために必要な援助について理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達や障がいの特徴について学ぶ。 ・ それぞれの障害に応じた援助法や障がい児保育について考える。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達や障害について理解し、必要な援助について考えることができる。 ・ 障害児保育の現状・課題について理解し、そのあり方について考えるとともに自分の意見を述べるができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の理解① 2 障害の理解② 3 障害児保育とは 4 障害児保育の形態 5 障害児保育の基本 6 家庭への子育て支援 7 関係機関・施設などとの連携 8 就学と特別支援教育 9 身体障害児に対する保育の実際 10 知的障害児に対する保育の実際 11 言語障害児に対する保育の実際 12 広汎性発達障害 (PDD) 児に対する保育の実際① 13 広汎性発達障害 (PDD) 児に対する保育の実際② 14 まとめ 15 後期定期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>実践に生かす 障害児保育・特別支援教育 (萌文書林)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (50 点)、提出物 (30 点)、授業態度 (15 点)、出席状況 (5 点) で評価する。</p>	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 玉木 義浩	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 障害者施設、老人福祉施設での経験を通して、こどもの生活と運動あそびを教授する。			
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における多様なニーズや生活様式に対応する保育を展開するために必要な知識・技術・考え方を身につける。 ・ 子どもへの援助・保護者に対する支援のあり方などについて理解を深めるとともに、保育と教育との連携、他職種連携について理解を深める。 ために必要な援助について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を通し障害やインクルーシブな考え方について理解を深める。 ・ さまざまな教育や手法、技術について主体的に学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児に対する保育を行う上で必要な知識・技術・考え方の基礎を身につけることができる。 ・ 子どもへの援助や保護者に対する支援のあり方、連携などについて理解を深めることができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 映画視聴を通し「自閉症」について考える 2 映画視聴を通し「自閉症」について考える 3 視覚障害体験を通し視覚障害について考える(誘導歩行と誘導技術) 4 映画視聴を通し「聴覚障害」について考える 5 車椅子の使い方を理解する 6 映像「知的障害(ダウン症・脳性マヒ)」支援の実際について理解する 7 映像「知的障害(ダウン症・脳性マヒ)」支援の実際について理解する 8 施設見学・体験(生活介護、就労支援、療育支援)実施できない場合 レクリエーション材の作成と実践 9 施設見学・体験(生活介護、就労支援、療育支援)実施できない場合 レクリエーション材の作成と実践 10 施設見学・体験(生活介護、就労支援、療育支援)実施できない場合 レクリエーション材の作成と実践 11 他職種連携と社会資源の活用 12 ソーシャルスキルトレーニングの実際と実践 13 構造化で使用できる教材の作成 14 まとめ 15 後期定期試験			
[使用テキスト・参考文献] ライフステージを見通した障害児の保育・教育 (みらい)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (50 点)、授業態度 (30 点)、出席状況 (20 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 三原 芙美子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修		
実務経験 あり なし					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の実際・援助の実際について具体的に理解する。 ・社会的養護を通して、子ども家庭福祉・家庭支援などに対する理解と認識を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の実際について学び、事例に対する分析を行う。 ・援助に関する知識・技術を習得するとともに、その応用について理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護に必要な知識・技術を習得し、社会的養護の実際について理解と関心を深めることができる。 ・子どもの権利擁護や専門職者としての倫理観について、自分の考えを持つことができる。 ・子ども家庭福祉・家庭支援・社会的養護に対する理解を深めることができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの権利擁護 2 専門職者としての倫理・責務 3 施設養護の特性・実際① 4 施設養護の特性・実際② 5 里親制度の特性・実際① 6 里親制度の特性・実際② 7 支援計画とは① 8 支援計画とは② 9 事例分析① 10 事例分析② 11 事例分析③ 12 課題と今後の展望① 13 課題と今後の展望② 14 グループワーク 15 まとめ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ (中央法規出版)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②定期試験 (50 点)、提出物 (30 点)、授業態度 (15 点)、出席状況 (5 点) で評価する。</p>		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 子育て支援	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 廣井 茂道	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 保育園での園長、理事長の経験を活かして、保育相談支援並びに保護者支援の意義と原則、実際に教授する。			
[授業の目的・ねらい] 保育所の役割として入所児の世話・発達援助だけではなく、その保護者ならびに家族への援助が必要になっている現状を伝える。また入所児の家族にとどまらず地域の子育て家族への援助の視点も築いていく。			
[授業全体の内容の概要] 保育所が社会の中で置かれている位置を知ってもらい、その中で子どもたちにどんなことが起きているのかを伝え、その背景と保育者がどんな役割を果たしていったらいいのか考えさせたい。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2 保護者支援の基本を理解する。 3 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
(1) 保育相談支援の意義 1 ①保護者に対する保育相談支援の意義 2 ②保育の特性と保育士の専門性を活かした支援			
(2) 保育相談支援の基本 3 ①子どもの最善の利益と福祉の重視 4 ②子どもの成長の喜びの共有 5 ③保護者の養育力の向上に資する支援 6 ④信頼関係を基本とした受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重 7 ⑤地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力			
(3) 保育相談支援の実際 8 ①保育に関する保護者に対する指導 9 ②保護者支援の内容 ③保護者支援の方法と技術 10 ④保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス			
(4) 児童福祉施設における保育相談支援 11 ①保育所における保育相談支援の実際 12 ②保育所における特別な対応を要する家庭への支援 13 ③児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援 14 ④障がい児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 「保育者が学ぶ家庭支援論」 (建帛社)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験(80点)、講義内の提出物又はレポート(20点)で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と運動あそび I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 絹子	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの生活と運動あそびを教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 幼児期に運動あそびによって獲得した運動能力や技能は、生涯にわたって日常生活の中であらゆる動作の基本となる。その点を踏まえて、身体的な活動を存分に楽しみながら、幼児期の心身の発達を助長し、遊びを中心として展開される子どもの生活と深いつながりをもつ、さまざまな運動方法を身につける。 [授業全体の内容の概要] ○子ども自ら主体的に運動あそびに取り組めるように保育者の環境構成や援助のあり方を学んでいく。 ○運動あそびの指導は、個人差を十分に考慮し、子どもの状況に柔軟に対応できる姿勢を養う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○運動あそびは、身体の発育・発達や運動能力や技能を養うと同時に知的、情緒的、社会的面といった精神的な発達にも重要であることが理解できる。 ○運動あそびを総合的な活動としてとらえ、子どもにとって発達を促す経験となる運動あそびを保育の中で展開できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 講義…幼児体育の意義・基本的ポイントについて 2 集団運動あそび (ルールのあるあそび) 3 リズム運動あそび 4 ゴムとびあそび 5 ボールあそび 6 フープあそび 7 8 } マット、跳び箱 9 } 平均台、鉄棒 10 } 11 なわとびあそび 12 組み立て体操 13 バルーン 14 コンビネーション運動あそび 15 実技テスト			
[使用テキスト・参考文献] ・プリントを適宜配布する。		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②学習態度及び出席状況 (50点) 実技テスト (20点) 授業ノート提出 (30点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と造形あそび I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 溝口 敏美	
実務経験 あり なし			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の造形活動の基礎知識を身につけ、様々な表現技法を知り、実践しながら感性を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 絵画・工作などの制作、造形表現についての講義</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 材料、用具の特性と造形の基礎知識を理解し、授業を通して創意工夫できたか。 授業を通して造形活動の流れ、技法を理解し作品に生かすことができたか。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平面 (画用紙、鉛筆、消しゴム、カッターナイフ、マスキングテープ) ★ 白と黒の世界を鉛筆を使用しての線描画の作成。黒鉛筆、白消しゴム 2 同上 3 平面 (画用紙、鉛筆、絵具) ★ 絵具を使用しての静物画の作成 4 同上 ★ 同上 5 平面 (画用紙、絵具) ★ 抽象画 6 平面 (画用紙、絵具、鉛筆) ★ 大きな絵をグループで作成する。キャラクターと場面構成を決める。 7～11 同上 12 切り絵 (色画用紙、のり、はさみ) ★ 季節が分かる行事の表現 13 同上 14 平面 (押す、こする、焼く、切り裂く) ★ 様々な技法を使用して表現する。 15 上記の経験を活かしてみんなと意見交換をしながらの作品鑑賞会 			
[使用テキスト・参考文献] 使用しない		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況 (40 点)、授業態度及び意欲 (20 点)、授業理解 (20 点)、作品評価 (20 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と造形あそびⅡ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長井 香織	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの生活と造形あそびを教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・子どもと一緒に楽しめる造形活動を学ぶ。 ・保育環境を考慮した制作および活用法を考える。 [授業全体の内容の概要] ・様々な素材、技法を使用した作品づくりをする。 ・子どもの発達段階や特性に応じた造形活動の方法を知る。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・自身のアイディアも取り入れ、楽しみながら造形活動を行う。 ・子どもの発達段階に合わせた造形活動を展開できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1、季節の制作① 画用紙 2、季節の制作② カラーセロハン 3、季節の制作③ クレヨン 4、季節の制作④ 版画 5、紙芝居制作 (図案作成) 6、紙芝居制作 素材づくり技法① こすり出し 7、 " 技法② デカルコマニー 8、 " 技法③ 染め紙、墨流し 9、 " 技法④ にじみ絵、はじき絵 10、 " 技法⑤ スタンプング 11、紙芝居制作 12、 " 13、 " 14、 " 15、紙芝居発表会			
[使用テキスト・参考文献] ・「技法あそび実践ライブ」(ひかりのくに)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②授業態度・制作意欲 (50 点)、作品の完成度 (20 点)、授業内容の把握 (30 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と言葉あそび	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 平澤 久美子	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの生活と言葉あそびを教授する。			
<p>[授業の目的・ねらい] 言葉の獲得に関する領域「言葉」の内容・方法・乳幼児の言葉の発達と理解を深めるとともに実践力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの言葉の発達と言語環境について学び、領域「言葉」を考える中で児童文化財等のもつ意味を理解し実践に活かせる実演を中心に行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 領域「言葉」のねらいや内容、乳幼児の言葉の発達を理解し、様々な児童文化財等の実演を通して、実践に応用できる力をつける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 子どもとことばの世界 3 子どもの想像力とことば 4 ことばのしくみと脳の働き 5 詩と出会うとき 6 言葉を育てる児童文化財 (絵本・紙芝居・ペープサート) 7 言葉を育てる児童文化財 (絵本・エプロンシアター・人形劇) 8 言葉を育てる児童文化財 (絵本・パネルシアター等) 9 児童文化財の制作 10 " 11 " 12 " 13 児童文化財の実演発表 14 " 15 こどもの言葉を豊かにするためには 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育と絵本 (エイデル研究所) ・参考文献を適宜紹介する ・R2年度 こどものともセレクション 12冊 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②定期試験 (50点)、制作物及び実演発表 (50点) で評価する。</p>	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 長井香織・玉木義浩・平澤久美子	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、保育実習指導を教授する。			
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習を行うために必要な知識・技術を習得し、実習課題を明確にする。 ・実習生・社会人として必要な礼儀作法・マナーを習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習事前学習として学内における講義・演習、学外での見学・参加実習を行う。 ・実習事後学習として実習総括を行い、新たな学習目標を設定する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに 実習体験を深化することができる。 ・実習生としてふさわしい振る舞いや言葉遣い、身だしなみなどを習得する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1～ 2 保育実習の意義・目的・概要</p> <p>3～ 4 保育所の機能・保育者の職務</p> <p>5～ 10 保育所観察実習に向けて</p> <p>11～ 12 保育所観察実習</p> <p>13 保育所観察実習を終えて</p> <p>14～ 17 課外実習に向けて</p> <p>18～ 28 保育所実習に向けて</p> <p>29～ 30 保育所実習を終えて</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド (わかば社) ・施設実習パーフェクトガイド (わかば社) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。</p> <p>②出席状況 (30 点)、授業態度 (20 点) 提出物 (50 点) で評価する。</p>	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育原理Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 平澤 久美子	
実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> あり なし 幼児教育分野での経験を通して、保育原理を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい] これからの保育所は何を求められているのか、またどうあるべきか保育の現状を把握し、今後の保育における課題を展望する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育実践の基本となる保育の原理の習得のために、保育所保育指針等を基本として、保育内容の理論と現状の両方から追及していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 保育の本質を理解し、保育とはどうあるべきかを実践的に理解する。また、日本の保育の現状の課題を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の意義と理念 2 欧米の保育の思想と歴史 3 // 4 // 5 近代日本の保育の歴史 6 保育の内容と方法 7 保育の内容と方法 8 保育の計画 9 保育者の職務と専門性 10 現代日本の保育の動向 11 現代保育の課題 12 現代保育の課題 13 障害児保育について 14 保護者対応 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・シードブック三訂 保育原理 (建帛社) ・保育所保育指針解説書 (フレーベル社)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験 (80点)、出席状況 (10点)、授業態度 (10点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭支援の心理学Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 金子 亜美	
実務経験 あり なし			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>・乳幼児期から老年期までの生涯発達に心理学の基礎的な知識をさらに深め、家庭における子どもの発達と家族の役割、家庭支援の意義と基本について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「生涯発達に関する心理学の基礎知識」、「家族・家庭の意義・機能および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題」、「子どもの精神保健とその課題」を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等を理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生涯発達と初期経験の重要性 2 家族・家庭の理解① 3 家族・家庭の理解② 4 子育て家庭に関する現状と課題① 5 子育て家庭に関する現状と課題② 6 子育て家庭に関する現状と課題③ 7 事例検討 8 特別な配慮を必要とする家庭への支援① 9 特別な配慮を必要とする家庭への支援② 10 特別な配慮を必要とする家庭への支援③ 11 特別な配慮を必要とする家庭への支援④ 12 事例検討 13 子どもの精神保健とその課題① 14 子どもの精神保健とその課題② 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] なし (資料を配布します)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②課題レポート(70点)、授業態度(20点)、出席状況(10点)で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) カウンセリング入門	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 金子 亜美	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 選択
実務経験 あり なし			
[授業の目的・ねらい] ・ カウンセリングの視点から、他者を捉える。 ・ 事例から、援助方法を考察する。 [授業全体の内容の概要] カウンセリングにおける基本姿勢を学び、ロールプレイや事例から他者との関わり方や援助方法について考察する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 他者とのコミュニケーションを円滑にし、かつ保護者からの相談に対応する力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 カウンセリングの基礎 2 自己分析 3 カウンセリング技法① 4 カウンセリング技法② 5 カウンセリング技法③ 6 カウンセラーの態度 7 事例検討 8 不登校 9 事例検討 10 いじめ 11 事例検討 12 人格障害の事例から学ぶ① 13 人格障害の事例から学ぶ② 14 保育に活かすカウンセリング 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] なし (資料を配布します)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②レポート (80 点)、授業態度及び出席状況 (20 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの発達と環境Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 絹子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、乳幼児期のこどもの環境の応用的な援助方法を教授する。			
[授業の目的・ねらい] ○子どもが遊びや生活の具体的な活動を通して、物の性質や特徴、道理に気づいたり、数量や文字に触れることのできる環境づくりのあり方を理解する。 ○遊びや活動を通して、自然や生物と触れ合う中で子ども自身が学びを深めることのできる保育環境のあり方を理解する。 [授業全体の内容の概要] ○子どもを取り巻く保育環境の重要性を理解し、「子どもが育つために必要な環境とは何か」「子どもにとって環境はどのような意味をもっているか」ということを理論と実践の両面から学ぶ。 ○日々の生活の中で、子ども自身が数の概念の必要性を感じ取ることのできる保育実践を学ぶ。 ○「調べる」「考える」「体験する」授業形態で学びを深める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○領域「環境」が重視している「物」「自然」「生物」「数量・文字」を取り入れた指導方法を身につける。 ○環境構成を通して、子どもの活動の幅を広げるための保育者の働きかけができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 子どもを取り巻く環境について ～子どもの実態から問題点を探る～ 2～5 自然環境を遊びに取り入れる指導方法 様々な物を活動に取り入れる指導方法 科学遊びを活動に取り入れる指導方法 6～15 幼児期における数の概念の必要性と指導方法 ※数遊びを通しての模擬保育の実践 【順番・順列、位置関係、空間認識、集合、分類の活動、数の合成・分解、推論判断】			
[使用テキスト・参考文献] かずあそび1, 2 幼年教育出版 保育所保育指針 適宜プリントを配布する		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②授業態度(20点)模擬保育による評価(60点) 授業ノート提出(30点)	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの発達と表現Ⅱ		授業の種類 (講義・ <u>演習</u> ・ 実習)		授業担当者 大塚絹子 平澤久美子	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修		
実務経験 <u>あり</u> なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの発達と環境を教授する。					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、「表現者としての保育者」の指導方法や環境設定をする力を身に付ける。 ・子どもの生活とつながりのある表現に関する技能や知識を基に、保育の現場と総合的に結びつける実践力を身に付ける <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「造形表現」「音楽表現」「言語表現」を総合的に取り入れた表現活動として、『人形劇』をグループで取り組む。人形劇は地域の保育園児に披露する機会を設ける。意欲的に活動に取り組むことで学生自身の心の内を表出し、人形劇を通して、子どもに伝えるための様々な表現力と指導力の向上を図る。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材や廃材の性質を理解し、工夫して活用することができる。 ・グループで協力し合い、様々な表現方法が創意工夫できる。 ・子どもたち一人ひとりが感動する人形劇を創作する。 ・学生自身が、自己の表現力を豊かに高めることができる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
<p>1・2 ①授業内容の説明、グループ分け、話し合い ※「人形劇」の概要と取り組み方について ②作曲について</p> <p>3～14 グループワーク ※各グループワークにより、人形劇の創作活動に取り組む</p> <p>15 『発表会』</p>					
[使用テキスト・参考文献] 各グループ活動内容に応じた参考書や雑誌を用意する。			[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況(40点)、グループ活動の取り組み(40点)、レポート提出(20点)で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と運動あそびⅡ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 玉木 義浩	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 選択		
実務経験 あり なし 障害者施設、老人福祉施設での経験を通して、こどもの生活と運動あそびを教授する。					
[授業の目的・ねらい] ・運動あそびⅠで学んだ知識と技術を基礎に、幼児体育に幅をもたすことができるようさまざまなあそびと展開方法、身体表現を習得し、あそびの面白さの見出し方、またどこに目を向けるのかを理解する。 [授業全体の内容の概要] ・実際に運動あそびを体験していくなかで、多くの動作の組み合わせ方、様々な遊具の使い方、遊具やその場の意味づけ、その場の雰囲気やルールづくりを具体的な展開を通して学ぶ。 ・リズムに合わせた運動遊びと身体表現を習得する。 園外(屋外)や集団における運動あそびの必要性を理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・幼児期における運動遊びを活発に展開させるための環境(物的環境・人的環境)をうまく機能させ、子どものあそびがより豊かに展開させられることができる。 ・さまざまなあそびを創意工夫することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 保育における運動遊びの実際(運動遊びをするにあたって留意したいポイント) 一部講義 2 リズムあそび・体操(ワンツー体操)・鉄棒の補助と援助の具体的方法・鬼ごっこ 3 リズムあそび・体操(ハロー体操)・マットを使った前転の補助と援助の具体的方法・鬼ごっこ 4 リズムあそび・体操(ワンツー・ハロー・ブルブルドック)・マットを使った後転の補助と援助の具体的方法・鬼ごっこ 5 リズムあそび・体操(ワンツー・ハロー・ブルドック・飛行船)・縄を使った遊びと飛び方の援助方法・鬼ごっこ 6 跳び箱と手具を使ったあそび リボン(くるくるしゃぼん玉)・リズムあそび・体操・鬼ごっこ 7 " " 8 手具を使ったあそび 鳴子(鳴子の体操)・リズムあそび体操・鬼ごっこ 9 " " 10 手具を使ったあそび・リズムあそび・ボールを使ったあそび・鬼ごっこ 11 校外活動(新潟アイスアリーナ)にてスケート体験 12 校外活動(新潟アイスアリーナ)にてスケート体験 13 レポート作成(子ども身体運動発達指導士資格レポート) 14 レポート作成(子ども身体運動発達指導士資格レポート) 15 試験(リズム運動・マットあそびの補助・跳び箱)					
使用テキスト・参考文献 子ども身体運動発達指導士 資格認定教本 (公益財団法人 日本スポーツクラブ協会)			[単位認定の方法及び基準] ・出席点 20 点(1 回欠席につき 5 点減点) ・レポート(30 点) ・平常点、試験(50 点)		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と音楽あそびⅢ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 高橋萌香・高橋裕子 須藤明子・安藤未玲	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、「こどもの生活と音楽あそびⅢ」を教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育園で歌われる生活の歌・行事の歌・季節の歌・いろいろな歌について、弾き歌いのレパートリーを広げ、演奏技術を高める。 ・ 様々な音楽あそびを経験し、各年齢児にふさわしい指導計画を立てる。			
[授業全体の内容の概要] ・ レベルに合わせた弾き歌い曲を選曲し、個別レッスンを受けながらレパートリーを広げ演奏技術を高めていく。 ・ 各年齢児の音楽あそびを経験すると共に、歌詞のイメージ化やリズムパターン・楽器の扱い方・援助が必要な子への具体的な指導法を入れながら指導計画を立てる。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 保育の現場や実習で弾き歌いできる曲が増えている。(各自目標設定) ※必須課題曲設定 ・ 各年齢児にふさわしい音楽あそびを理解し、指導計画を立てることができる。 ・ ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調・イ短調の簡易伴奏ができるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※毎回、個々のレベルに応じた個別レッスンを受ける。 ※各クラスを 2 グループに分け、前半或は後半に音楽あそびを行う。 コマ数 1. オリエンテーション・担当教員発表・個別レッスン・(あ)『つながる・るるるる』 2. 生活の歌 p13『おはようのうた』 p19『おべんとうのうた』 p22『おかえりのうた』 3. p.37『こいのぼり』・リズム遊び・リズム楽器 4. 合奏に挑戦①『さんぽ』『世界中のこどもたちが』各楽器のリズムパターンを考えよう！ 5. 『さんぽ』『世界中のこどもたちが』合奏練習 6. 合奏『さんぽ』『世界中のこどもたちが』発表 7. ピアノ発表会 8. 歌・音楽あそび・模擬保育「音楽あそび」指導案作成に向けて(ねらい・活動内容・題材) 9. 歌・音楽あそび・模擬保育「音楽あそび」指導案作成(準備・活動の流れ) 10. 歌・音楽あそび・模擬保育「音楽あそび」指導案作成(指導案用紙に記入) 11. 歌・音楽あそび・模擬保育「音楽あそび」指導案作成(援助・配慮) 12. 歌・音楽あそび・模擬保育指導案提出日 13. 歌・音楽あそび 14. 試験曲をグランドピアノで弾こう！ 15. 定期試験(弾き歌い)			
[使用テキスト・参考文献] ・ 『保育のうた 155』(ひかりのくに)		[単位認定の方法及び基準] ・ 定期試験 (75 点) ・ 練習状況 (10 点) ・ 出席状況 (15 点)	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と音楽あそびⅣ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 高橋萌香・高橋裕子 須藤明子・安藤未玲	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、こどもの生活と音楽あそびを教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] ・弾き歌いのレパートリーを広げると共に、歌い出しの合図を入れ、できるだけ園児を見ながら歌えるようにする。 ・音楽あそびの計画を立て、歌詞のイメージ化・楽器の取り扱い・段階を追った指導に留意しながら展開できるようにする。 [授業全体の内容の概要] ・個別レッスンの中で、弾き歌いのレパートリーを広げると共に、歌い出しの合図を入れ園児を見ながら演奏する練習を行う。 ・指導年齢を設定して発達段階に合った音楽あそびの指導案を作成し、模擬保育を行う。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・歌い出しの合図を入れ、時々園児の方を見ながら弾き歌いを行うことができる。 ・年齢に合った音楽あそびを計画し、歌詞のイメージ化・楽器の取り扱い・段階を追った指導等に留意しながら模擬保育を行うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※各クラスを 2 グループ分け、前半或は後半に音楽あそびの模擬保育を行う。 1. オリエンテーション・弾き歌いの担当日確認 (毎回 2 名)・音楽あそび 2.~13 (※ただしこのうち 1 コマは、発表会を行う) 音楽あそび模擬保育 (約 30 分) 3 歳児クラス 4 歳児クラス 5 歳児クラス ※毎回、学生との振り返り、教員からの指導を行う。 ※他に歌・手あそびを行う。 14. 試験曲をグランドピアノで弾いてみよう！ 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 「保育のうた 155」 (ひかりのくに)		[単位認定の方法及び基準] ・定期試験 (75 点) ・練習状況 (10 点) ・出席状況 (15 点)	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と造形あそびⅢ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長井 香織	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの生活と造形あそびを教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] ・子どもと一緒に楽しめる造形活動を学ぶ。 ・発達段階に合った作品づくりの展開方法を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] ・様々な素材、技法を活用して造形活動に取り組む。 ・子どもと活動する場合の準備や導入方法を知る。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・自身のアイデアも取り入れ、楽しみながら造形活動を行うことができるようになる。 ・材料や用具の特性を理解し、実際に子どもと行うための準備や方法を身に付ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1、こいのぼり製作①<年齢に合った技法> 2、 " ② 3、製作遊びの進め方① 4、 " ② 5、 " ③ 6、身近な素材を使った工作①<たまごの殻> 7、 " ② 8、張り子工作①<障子紙、お花紙> 9、 " ② 10、" ③ 11、" ④ 12、行事を伝える教材づくり①<ペープサート> 13、" ② 14、" ③ 15、ペープサート発表会			
[使用テキスト・参考文献] ・「技法あそび実践ライブ」(ひかりのくに)		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②作品の完成度 (50 点)、授業内容の把握 (30 点)、授業態度 (20 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と造形あそびⅣ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 平澤 久美子	
実務経験 あり なし 幼児教育分野での経験を通して、こどもの生活と造形あそびを教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>子どもたちのように実際の行事を楽しむことで、ワクワク感を体験し子どもたちにも感じてもらえるような活動を考えることができるようになる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育所・幼稚園でよく行われている行事を再現することで、準備から活動までの流れを知ることができるよう、体験型の授業展開を行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕</p> <p>実際に活用できる保育技術を学び、実践していける力を身に付ける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 秋の製作って？なんだろう 3 絵の具で遊ぼう 4 お店屋さん／看板 5 廃材を使って (トイレットペーパーの芯) 6 廃材を使って (牛乳パック) 7 廃材を使って 8 お店屋さん／看板 9 お店屋さん／看板 10 お店屋さん／看板 11 お店屋さん／看板 12 お店屋さん／看板 13 お店屋さん／看板 14 お店屋さん／看板 15 作品展 (合同) 			
[使用テキスト・参考文献] ・「技法あそび実践ライブ」(ひかりのくに) ・「たのしくつくる おりがみあそび」(チャイルド本社) ・適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②作品の完成度 (50 点)、授業内容の把握 (30 点)、授業態度 (20 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) あそびと創作活動Ⅲ・Ⅳ (スポーツコース)	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 永塚 いづみ	
実務経験 あり なし 社会福祉施設、保育園、幼児教育分野での経験を通して、あそびと創作活動を教授する。			
授業の回数 15回 (集中)	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ダンスの楽しさを伝える。			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体づくり(体力トレーニング、ストレッチ、リズムトレーニング) ・理論講義(ダンスの歴史音楽の基礎知識) ・指導方法実践(こどもへの声かけ、伝え方、ダンスの指導方法) ・発表会(ダンスの楽しさを伝える、表現する) 			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・こども向けのダンスクラス(60分)の授業を行うことができるようになる。 ・ダンスショー(発表会)ケースの企画・構成・演出を行う。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※あそびと創作活動Ⅳと並行して行う。			
コマ数			
1	基礎からだづくり	①後期テスト講評・ヒップポップ基本復習	
2	指導方法講義	①こどもへの伝え方、ウォーミングアップ、基本トレーニングの指導方法	
3	発表会リハーサル	①テーマ決め、構成、グループ分け、アイデア出し	
4	基礎からだづくり	②ヒップポップ基礎・ロックンダンス基礎	
5	指導方法講義	②ヒップポップ(アップ・ダウン)の指導方法	
6	発表会リハーサル	②各作品の練習1	
7	基礎	③ジャズダンス基礎	
8	指導	③ヒップホップ基本ステップの指導方法	
9	発表会	③各作品の練習2・衣装のアイデア出し	
10	基礎	④パンキング基礎	
11	指導	④グループ演習、指導の実践	
12	発表会	④各作品の練習	
13	基礎	⑤フリースタイル基礎	
14	指導	⑤グループ演習、ディスカッション	
15	発表会	⑤全体とおしりハーサル	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②成果発表会(80点)、出席状況及び授業態度(20点)で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) あそびと創作活動Ⅲ (ミュージックコース)	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 玉木 義浩	
実務経験 あり なし 社会福祉施設、保育園、幼児教育分野での経験を通して、あそびと創作活動を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・修理調整した楽器を通し演奏技術を身に付ける。 ・他者と歌を合わせることによって、歌唱力や表現力磨く。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の演奏とともに、楽器のメンテナンスであったり調整技術も身に付ける。 ・人前で歌うことにより、歌うことに慣れる。 ・発表会に向けての練習を通し表現力を豊にする。 ・発表会(楽器や物の大切さ、音楽の楽しさを伝え、表現する) [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・自分で修理した楽器を通し、演奏技術であったり、メンテナンス技術を身に付ける。 ・発表会を通し、舞台での構成・演出技術を理解する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ①楽器の調整を含む演奏技術の習得 ②合奏、合唱の練習と調整。 2 3 4 5 6 7 9 10 11 12 発表会リハーサル 13 発表会リハーサル 14 発表会 15 発表会(振り返り含)			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②成果発表会(60点)、出席状況及び授業態度(20点)で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) あそびと創作活動Ⅳ (ミュージックコース)	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 玉木 義浩	
実務経験 あり なし 社会福祉施設、保育園、幼児教育分野での経験を通して、あそびと創作活動を教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・修理調整した楽器を通し演奏技術を身に付ける。 ・他者と歌を合わせることによって、歌唱力や表現力磨く。 [授業全体の内容の概要] ・楽器の演奏とともに、楽器のメンテナンスであったり調整技術も身に付ける。 ・人前で歌うことにより、歌うことに慣れる。 ・発表会に向けての練習を通し表現力を豊にする。 ・発表会(楽器や物の大切さ、音楽の楽しさを伝え、表現する) [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・自分で修理した楽器を通し、演奏技術であったり、メンテナンス技術を身に付ける。 ・発表会を通し、舞台での構成・演出技術を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ①楽器の調整を含む演奏技術の習得 ②合奏、合唱の練習と調整。 2 3 4 5 6 7 9 10 11 12 発表会リハーサル 13 発表会リハーサル 14 発表会 15 発表会(振り返り含)			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②成果発表会(60点)、出席状況及び授業態度(20点)で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) あそびと創作活動Ⅲ (食育コース)		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 三原 芙美子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修		
実務経験 あり なし					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者として子どもの「食を営む力」を育むために必要な知識、技能の向上を目指す。 ・ 保育の現場における食育活動の計画と実践を経験する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育活動を展開するために必要な知識・技能を体験的に習得する。 ・ 自ら計画した食育活動を実践する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの「食を営む力」の基礎を育む様々な活動を展開できる。 ・ 表現力を高め、これまで身に付けた食育に関する知識や技術を発表する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栽培活動① 2 栽培活動② 3 栽培活動③ 4 栽培活動④ 5 年齢別の年間食育計画① 6 年齢別の年間食育計画② 7 行事における食育活動① 8 行事における食育活動② 9 行事における食育活動③ 10 食事のマナー、伝統料理や郷土料理 11 食物アレルギー、食事を五感で味わう 12 季節に応じた食育活動① 13 季節に応じた食育活動② 14 季節に応じた食育活動③ 15 季節に応じた食育活動④ <p>※畑での活動など、天候や野菜の成長によって授業内容の順番は変わります。</p>					
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布			[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況 (20 点)、提出物 (20 点)、授業態度 (60 点) で評価する。		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) あそびと創作活動Ⅳ (食育コース)	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 三原 芙美子	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択 必修
実務経験 あり なし			
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者として子どもの「食を営む力」を育むために必要な知識、技能の向上を目指す。 ・ 保育の現場における食育活動の計画と実践を経験する。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育活動を展開するために必要な知識・技能を体験的に習得する。 ・ 自ら計画した食育活動を実践する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの「食を営む力」の基礎を育む様々な活動を展開できる。 ・ 表現力を高め、これまで身に付けた食育に関する知識や技術を発表する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 旬の食材を活かした食育活動① 2 旬の食材を活かした食育活動② 3 旬の食材を活かした食育活動③ 4 最終課題① 5 最終課題② 6 最終課題③ 7 最終課題④ 8 最終課題⑤ 9 最終課題⑥ 10 最終課題⑦ 11 最終課題⑧ 12 リハーサル 13 リハーサル 14 発表会 15 発表会 ※畑での活動など、天候や野菜の成長によって授業内容の順番は変わります。			
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布		[単位認定の方法及び基準] ①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況 (20 点)、提出物 (20 点)、授業態度 (60 点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 玉木義浩・平澤久美子	
実務経験 あり なし 老人福祉施設、障害者施設、幼児教育分野での経験を通して、保育実習指導を行う。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習Ⅰ」を踏まえて改めて自己の課題や実習目標を明確にする。 ・保育士としての資質・能力・技術を習得するとともに、判断力・理解力を養い、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案、保育技術の習得など、実習を円滑に進めるための知識・技術を習得する。 ・事前・事後の学習や実習体験を踏まえ、保育所や施設の機能、保育士の役割や職務について具体的・総合的に学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識・技術を保育実践に適応・応用することにより、保育者として求められている資質や専門性を高める。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅰ (保育所) を終えて① 2 保育実習Ⅰ (保育所) を終えて② 3 保育実習Ⅰ (保育所) を終えて③ 4 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて① 5 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて② 6 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて③ 7 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて④ 8 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑤ 9 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑥ 10 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑦ 11 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑧ 12 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑨ 13 保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて⑩ 14 保育実習Ⅱ・Ⅲを終えて 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド (わかば社) ・施設実習パーフェクトガイド (わかば社) 		[単位認定の方法及び基準] ①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②出席状況 (30点)、授業態度 (20点) 提出物 (50点) で評価する。	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と音楽あそび I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 高橋萌香・高橋裕子・須藤明子・安藤未玲・小林亜子	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、こどもの生活と音楽あそび I を教授する。			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・レベル別教材を用いた個別レッスンを通して、弾き歌いに向けた技能を習得する。 ・歌のレパートリーを広げ、園児の発達段階に合った音楽あそびを経験する。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・個々のレベルに合わせた教材で個別レッスンを受け、ピアノの技術を身に付ける。 ・園で歌われるこどもの歌に触れ、歌詞のイメージ化や楽器演奏の基礎・発達段階にふさわしい音楽あそびについて学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・後期からの弾き歌いに向けてピアノの基礎的知識・技能を習得する。 ・保育園で歌われるさまざまな歌を楽しみながら歌うことができる。 ・リズム楽器の扱い方を知り、基本的な演奏指導が行える。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※毎回、個々のレベルに応じた個別レッスンを受ける。 各クラスを 2 グループに分け、前半或は後半に、以下の歌・音楽あそびを経験する。 コマ数 (p) ピアノ (歌) 歌唱 (あ) 音楽あそび 1. オリエンテーション アンケート 楽譜選び 担当教員の発表 2. (p) 指の形・指番号・右手ド～ソ (歌) 生活の歌 (振り付け) 3. (p) 左手のド～ソ (歌) 季節の歌・春 行事の歌・春 4. (p) 両手のド～ソ (歌) 季節の歌・春 5. (p) 練習曲 (歌) 季節の歌・春 (あ) リズム楽器① 6. (p) 練習曲 (歌) 人気の歌 (あ) リズム楽器② 7. (p) 練習曲 (歌) 行事の歌・夏 (あ) 『さんぽ』(リズム楽器を使って) 8. (p) 練習曲 (歌) 季節の歌・夏 (あ) ミュージックベル① 9. (p) 練習曲 (歌) 季節の歌・夏 (あ) ミュージックベル② 10. ピアノ発表会 ※定期試験曲発表 11. (p) 練習曲 (歌) 誕生会の歌 (あ) 「バナナのおやこ」 12. (p) 練習曲 (歌・あ) 「バナナのおやこ」サンバ楽器 13. グランドピアノで試験曲を弾こう！ 14. 定期試験 (筆記・ピアノ)			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ぴあの どりーむ 3/4/5 (学研プラス) ・「保育のうた 155」 (ひかりのくに) 		[単位認定の方法及び基準] <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (75 点) ・練習状況 (10 点) ・出席状況 (15 点) 	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と音楽あそび II	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 高橋萌香・高橋裕子・須藤 明子・安藤未玲・小林亜子	
実務経験 あり なし 保育園での保育士の経験を通して、こどもの生活と音楽あそびIIを教授する。			
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園等で歌われる子どもの歌を練習し、弾き歌いができるようにする。 ・ 歌のレパートリーを広げ、園児の発達段階にふさわしい音楽あそびを経験する。 ・ 鍵盤ハーモニカの基礎と指導法を学び、実践力を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のレベルに合わせたレッスンを受け、弾き歌いのレパートリーを広げる。 ・ 保育園で歌われる歌を歌い、さまざまな音楽あそびを経験する。 ・ 鍵盤ハーモニカの指導法を知り、グループで曲を決め発表をする。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のレベルに応じた楽曲の弾き歌いができる。 ・ 鍵盤ハーモニカを指導できるようになると共に、3.4.5歳児それぞれにふさわしい楽曲を選び、簡単なアレンジができるようにする。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ※毎回、レベルに合わせた弾き歌いの個人レッスンを受ける。(CFGカデッツも) 2グループに分かれ、45分間は以下の歌唱・鍵盤ハーモニカ・音楽あそび等を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・秋の歌・音楽あそび 2. (手) 乳児のふれあいあそび (歌) 秋の歌 (鍵ハ) 鍵盤ハーモニカの指導法① 3. (手) 2歳児の手あそび (歌) 秋の歌 (鍵ハ) 鍵盤ハーモニカの指導法② 4. (手) 3歳児の手あそび (歌) 秋の歌 (鍵ハ) 鍵盤ハーモニカの指導法③ 5. (手) 4歳児の手あそび (歌) いろいろな歌 (鍵ハ) 名曲にチャレンジ! 6. (p) ピアノ発表会 7. (手) 5歳児の手あそび (歌) いろいろな歌 (リトミック) 3歳児 8. (手) 手あそびの表作成 (歌) いろいろな歌 (リトミック) 4歳児 9. (p) 生活の歌 (歌) いろいろな歌 (リトミック) 5歳児 10. (歌) クリスマスの歌 (鍵ハ) ジングルベル ※試験曲発表 11. (歌) クリスマスの歌 (あ) 「うさぎ野原のクリスマス」振り付け 12. クリスマスの手あそび・歌・合奏・ダンス 13. (歌) 行事の歌 (p) グランドピアノで試験曲を弾こう!① 14. (歌) 卒園式の歌 (p) グランドピアノで試験曲を弾こう!② 15. 定期試験 			
[使用テキスト・参考文献] ・「保育のうた155」(ひかりのくに)		[単位認定の方法及び基準] ・定期試験(75点) ・練習状況(10点) ・出席状況(15点)	